

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 水谷 怜子

作成日 2022年3月17日

【責任】

薬学部薬学科において、臨床薬学領域の教育、社会薬学領域の研究を行っている。主な教育活動として臨床系薬学の講義、実習を担当しており、「薬と疾病（神経疾患）」で薬物治療に関する講義、「早期臨床体験実習」で薬剤師に必要な手技を指導、4年次では「臨床薬学実習」のコミュニケーション部分の指導を担当、ならびに、卒業研究生の学生指導、小・中・高校生を対象とした薬学体験を行っている。

【理念】

私の教育理念は、「患者を尊重し、薬物治療を自ら深く追求する薬学生・薬剤師の育成」である。薬学は、化学・生物・物理を基盤とし、最終的に薬物治療に発展させる学問である。大学での学習内容は多岐に渡るため、全てを網羅的に教育することは困難であり、卒業に必要な内容に限定される。そのため、薬剤師個々の価値を高めるには自らが薬や疾病に興味を持ち、深く追求することが重要であると私は考える。

加えて、患者の生活状況、患者個々の疾病状況に寄り添った薬物治療を追求することができれば、薬剤師が行う薬物治療の価値を上げることができると考える。上記の理念を実現するために以下の【方針・方法】により教育を実践している。

【方針・方法】

理念に記載した「患者を尊重し、薬物治療を自ら深く追求する薬学生・薬剤師の育成」を実践するために以下の3要素を主軸とし、それぞれ方法・方針を取り入れている。

①「薬学を面白いと思ってほしい」

- ・薬物治療に興味を持つためには「薬学は複雑だから面白い」ということを伝えたい。

【方針】薬学の複合性を意識させる

【方法】

- ・臨床現場のリアリティを想像できるよう、自らの薬剤師経験による具体的な薬物治療を含めた講義内容、及び教科書には記載されていない補足資料を積極的に追加することで臨床現場と現在の学習との関連を実感してもらう。
- ・臨床現場の経験を基に薬物治療と化学・生物・物理・衛生等とのつながりを意識した資料作成、作問を行うことで、幅広い視点が薬物治療に必要であることを意識させ、薬学全般に興味を持ってもらう。
- ・講義内容に薬の歴史的観点を加えることで、同種同効薬の用途の違い、薬物治療の複雑さに興味を持ってもらう。

②「患者とともに薬物治療を行うイメージを持ってほしい」

- ・患者の満足する薬物治療は何かを想像する力を身につけてほしい

【方針】患者に対する共感性、信頼関係を育むコミュニケーション力の醸成

【方法】

- ・ コミュニケーション力の醸成は、たわいもない会話が重要であることが多いため、自らすすんで学生と積極的にコミュニケーションをとる。
- ・ 共感力の醸成には、相手の観察（健康状態の把握）、積極的な傾聴、相手の良さを知ることが重要であることが多いため、自ら積極的に学生を観察、話をよく聞く、良いところを見つけることを行う。
- ・ 学生が各々自分らしい薬剤師としての確固たる自信を持ち、薬物治療にあたることが患者に対する信頼関係につながるため、学生の個性を尊重する。
- ・ 信頼関係を醸成するには、意見を議論しあうという経験が必要であるため議論の場を提供する。
- ・ 服薬指導等は患者の大切な時間を頂戴して説明をすることとなるため、時間厳守が必要となる。そのため自ら積極的に講義時間を守り学生の時間を大切に扱う。

③「基礎薬学と臨床薬学を繋げる学習方法を追求し続ける」

・ 薬学教育・化学、最新薬物、臨床薬学等の最新の情報を入手し、常に講義内容をアップデートしていく。

【方針】自らも最先端の情報の取得、公表を積極的に行っていく。

【方法】

- ・ 薬学は記憶学習・実践学習の両面から教育が必要であり、より効率性が必要な場合もあるため最先端の薬学教育に関する勉強会へ参加し、実践していく。
- ・ 学生が学んでいる関連講義を自分自身も受講あるいは講義内容を資料で学ぶことで、関連科目と同時の時系列を意識しながら講義を進めていく。
- ・ 定期的に自身の研究内容を公表する。
- ・ 講義に関連する最新の論文を紹介する。

【成果・評価】

<講義のアンケートの結果>

- ・ 講義の満足度はおおむね高い結果となっている。
- ・ 「講義が面白かった」「興味がわいた」「これまでの学習とつながっていることが分かった」などの回答が多かった。
- ・ メールも含めると、講義開講日、オフィスアワー以外でも多くの質問が寄せられ、質問の頻度が高かった。

【目標】

<短期目標>

- ・ 講義自体は疾患の薬物治療や、薬物に対し興味・追求・探求心を持ってもらう事を前提に作成をしているが、あわせて国家試験に対する学習効果も上げていきたいと考えているため、次年度の講義では記憶学習にも対応できるきめ細やかな学習環境の整備に力を注ぐ。
- ・ 講義時間内にも振り返りのできる演習問題を加えていく。

<長期目標>

- ・ 自由科目として薬学基礎科目と臨床科目の繋がりを深める事を目的とした演習・講義を創成する。